

第 18 回「政治についての話し辛さ、について考える」(2012/2/12)

場所：カフェ ラ・ボエム (恵比寿)

司会：野田、文責：野田

参加者：14 人

要約：政治の個々の課題についての会話のしにくさの原因について主に議論しました。そもそも政治とは何かについても話しました。

お題の説明：政治に関して話をする際に、話し辛さがあります。この話し辛さを切り口に、政治について考えました。

注：「政治」は刺激が強く、取り扱いにくいテーマです。いらぬ誤解を避けるために、会での実際の発言にあったキーワードとは異なる表現を、このまとめでは一部用いています。又、分かり易くするために実際の発言の時系列とは異なる順序でまとめました。

内容：

1. 何について対話するか確認しました。
 - ・ 実際の政治の仕組みや過程を話題にする際の話し辛さについて対話したい。例えば、青少年など、政治に現在関わりを持たないが、将来関わる人に対し、実際の政治の仕組みや過程について説明する機会があった場合における話し辛さ。
 - ・ 社会における個々の課題の中で政治の対象となるもの、例えば消費税をどうするかとか、年金をどうするかなどについての話し辛さについて対話したい。
2. 政治とは何か
 - ・ マックス・ウェーバーの定義では、「国家の指導に影響を与える行為」である。
 - ・ 会食時の勘定の配分を決めたり、家事の分担など、お互いの利益に関連して、意見を調整して、行為の内容を決めるのは、政治の一種である。
3. 実際の政治の仕組みや過程についての話のし辛さはどこから来るのか
 - ・ そもそも政治の仕組みが複雑で良く理解出来ていない。又、個々の政治の決定は、社会全体に対して多様な影響を及ぼし、全体像を把握出来ていない。そのため、自信を持って他人に説明できない。
 - ・ 子供の頃に、親に政治とか選挙などを聞いたときに、親に叱られたことがあるが、政治というものには薄汚い部分があるので、子供に触れて欲しくなかったのではないか。
4. 個々の政治課題についての話し辛さはどこからくるのか
 - ・ ベルリンの壁崩壊や日本の政治における 55 年体制（自民党と社会党の、政権交代のない 2 大政党制）の終了後、日本では党派対立の構図が曖昧になり、会話している相手の政治的立場がはっきりしないことが多くなった。従って、個々の政治課題について、相手がどういった意見を持っているか、事前に予測しにくいいため、話し辛い。
 - ・ 経済成長率が低下し、政治が以前のような富の配分ではなく、痛み配分になっており、痛みを押し付けあう話になりがちのため、話し辛い。

- 個々の政治課題については話辛いですが、社会の不満というものは話しやすい。政治課題に対して、政治的な解決手段を提示すると、会話の相手と利害対立が起きる可能性がある。不満に関しては、お互い共感することが出来る。
 - 政治課題について話していると、解決手段に対して賛成か反対か二分法的に白黒つけようとしてしまう人が多い。政治課題やその解決手段について、色々な考え方をやり取りしたり、事実関係の確認をするということをやりたいが、なかなかそうならない。
 - 自分の意見を否定されると、人格を否定されたような気持ちになり、辛い。
 - 選挙制度や行政の仕組み、社会の複雑さにより、個々の政策の結果が間接的にどういった影響を及ぼすかは分かりにくい。直接的な影響が予想される場合は、自分の利害に直結するため、自分の立場を譲りにくい。
 - 国家レベルの話では、身近に感じられない。国家をどう動かすかについて、スケールが大きすぎるため、意見がもてない。
 - 政治に関して意見を持たなくても、急には困らない。他人事だと思ってしまうことがある。
 - 対話のルールがあり、お互い見ず知らずといった、利害の対立がない場合には多少話しやすくなるかもしれない。
 - 教育の場その他で、自分たちで決定する行為などを通じて、政治的な行為に慣れることが出来れば、話しやすくなるかもしれない。
5. 個々の政治課題について話し合うべきか
- 意見を戦わせることが政治である。個々の政治課題について対話していなければ政治をしていないことになる。
 - 複数人間が、言語を用いることによって共同して行動することが政治の正当性の本質であるという考え方がある。従って、個々の政治課題について対話することが正当性の観点から望ましい。とはいうものの、実際は一部の政治課題について、対話により十分に理解したり、合意するのですら時間がかかり、難しい。

我々は選挙を通じて、政治に定期的に参加する。その際に、政策を十分に理解して投票できれば理想的である。しかし、個人で理解できる範囲は限られているため、他者との対話を通じて理解する範囲を広げることが望ましい。対話において注目すべきポイントが今回の対話の中から見えてきたように思えます。